

心筋症

心筋症とは？

さまざまな原因により、心臓の筋肉（心筋）に異常が起こり、心機能が障害される病気です。心筋に異常な肥大が起こる肥大型心筋症、心筋の収縮が低下し心室が著明に拡張する拡張型心筋症、心筋が硬く拡張しにくくなってしまいう拘束型心筋症、心筋のすき間が多くスポンジ状になる心筋緻密化障害などがあります。肥大型心筋症の一部で、左心室の出口が狭くなってしまいう例を閉塞性肥大型心筋症と呼びます。心筋症の原因には、遺伝子異常のほか、炎症、不整脈、膠原病、薬の副作用などがあり、肥大型心筋症の約 50%、拡張型心筋症の約 30%が家族性といわれています。

どのような症状が起きますか

拡張型心筋症や心筋緻密化障害では、呼吸困難、むくみ、全身の倦怠感、顔色が悪い、むくみなどの心不全症状がみられます。不整脈による動悸や失神などが起こることもあります。肥大型心筋症は健診などで発見され自覚症状がない場合もありますが、拡張型心筋症と同様の心不全症状のほか、胸痛、動悸、失神などを認めることもあります。

どのように診断しますか

胸部レントゲン写真、心電図検査、心エコー検査、血液検査などから診断します。より詳しく調べるため、心臓 MRI 検査、心臓カテーテル検査、心筋生検、遺伝子検査を行う場合もあります。

どのように治療しますか

心不全症状に対しては利尿薬、血管拡張薬、ベータ（ β ）遮断薬などが使用されます。 β 遮断薬は肥大型心筋症（特に閉塞性肥大型心筋症）にも使用されます。左心室の出口の狭窄が高度の場合には心筋の一部を切除する手術が行われることがあります。激しい運動で悪化する危険があり、症状の程度に応じた運動制限が必要です。これらの治療を行っても症状が進行する場合には、心臓移植の対象となることがあります。